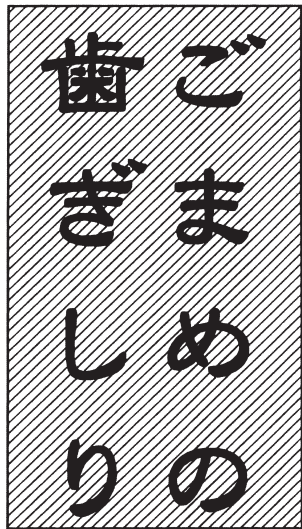


（商標登録番号・第4234817号）



— 第50号 —

### 河野太郎事務所

ツイッター @konotarogomame  
電子メール tarokono1963@gmail.com  
ホームページ <http://www.taro.org/>  
自民党神奈川県第15選挙区支部

平塚事務所  
〒254-0811 平塚市八重咲町7-26  
TEL 0463-20-2001 FAX 0463-21-7711

茅ヶ崎事務所  
〒253-0045 茅ヶ崎市十間坂1-2-3-2F  
TEL 0467-86-2001 FAX 0467-86-2002

議員会館  
〒100-8982 千代田区永田町2-1-2  
衆議院第二議員会館1103号室  
TEL 03-3508-7006

開発に前のめりの  
経済産業省ですら、  
どんなに早くとも

## 河野太郎の国会報告

### 《ゴジラは防災？》

映画「シン・ゴジラ」に出てくるオペレーションルームは、東京の有明にある広域防災拠点の本物のオペレーションルームです。

このオペレーションルームは撮影などにもお貸ししています。一応、防災に関する広報に資するものであることが条件です。

「シン・ゴジラ」も防災だったんですね！一日当たりの賃料は約三万円と大変お安くなっています。

ただし、万が一、大規模災害が起きて、オペレーションルームを使用することになった場合は直ちに退去していただきます。お問い合わせは内閣府防災まで。

### 入山 結 核燃料サイクルとはなにか

原子力発電では、ウランを加工した燃料を燃やして発電します。そして燃えたウラン燃料は、使用済み核燃料と呼ばれます。

この使用済み核燃料を再処理、つまり化学薬品をかけて溶かすと、中からプルトニウムを取り出すことができます。そしてプルトニウムを取り出した残りは、高レベル放射性廃棄物と呼ばれる核のゴミです。

取り出したプルトニウムを、高速増殖炉と呼ばれる特殊な原子炉で燃やすと、核燃料に含まれる燃えないウラン二三八に中性子が当たり、燃えるプルトニウム二三九に変わります。発電をしながら、プルトニウムがよりたくさんプルトニウムを生

み、それがまたこの高速増殖炉の燃料になるわけです。

この一連の流れを核燃料サイクルと呼んでいます。そして日本は、原子力発電を始めた時から核燃料サイクルをきっちりやろうとしてきました。

西暦二〇五〇年より前には、高速増殖炉は商業的に使われることにはならないだろうと言わざるを得ないのが現実です。

プルトニウムを燃やすための高速増殖炉の開発のめどが立たないなかで、日本はプルトニウムを四八トン

## もんじゅ 夢から幻へ

高速増殖炉を実用化するためには、実験炉、原型炉、実証炉、実用炉と四つのステップを踏まなければなりません。その二番目の原型炉として開発されてきたのが「もんじゅ」ですが、一九九五年にナトリウム漏れの重大事故を起こしてから、ずっと稼働できない状態です。高速増殖炉の

保有しています。日本は長い間、再処理をイギリス、フランスに委託してきたので、日本の保有するプルトニウムの大部分はこの両国で保管されていますが、すでに日本国内に一回転が移送され、残りもやがて送られてくることとなります。プルトニウムは、核爆弾の材料で

す。八キロのプルトニウムで核爆弾を一つ作ることができます。核実験を強行した北朝鮮が保有するプルトニウムはおそらく数十キログラムだと言われています。それに対して、日本は四八トン、つまり北朝鮮の一千倍近いプルトニウムを保有しているのです。

それだけではありません。青森県の六ヶ所村に作られた再処理工場には、もし稼働すると、年間八トンのプルトニウムを生み出す能力があります。

さすがに国際的にも説明がつかなくなつた経済産業省と電力会社は、プルトニウムとウランを混ぜたMOX燃料を原子力発電所で燃やすプルスール発電を始めると言いだしました。

本来高速増殖炉で燃やすはずのプルトニウムを、苦肉の策として、ウランと混ぜて原子力発電所で燃やして、少しでもプルトニウムを消費しようというのが、プルスールです。電力会社と経済産業省は、プルスールをウラン資源の再利用だというふうに宣伝をしています。

MOX燃料は、ウラン九に対してプルトニウム一の割合で混ぜられています。ですからプルスールをやってもウラン燃料の一割の節約になるだけです。しかし、そのためにMOX燃料工場を何兆円もお金をかけて、新しく作らなければなりません。そしてMOX燃料はウラン燃料と比べてはるかにコスト高です。こんなことをするお金があるのだつたら、

ウラン鉱山をそのお金で買ってしまつた方が、はるかに安上がりです。今、日本は、高速増殖炉を実用化できないだけでなく、他方、溜まりつつあるプルトニウムを消費するためのプルスール計画に、さらに数兆円のお金をかけようとしています。明らかにこんな原子力政策は間違っています。

原子力発電所でウランを燃やせば、非常に強い放射能をもつた核のゴミが必ず出ます。地下数百メートルに埋めてから数百年間、きちんと管理をする、そしてその後、人間社会から完全に切り離すという地層処分をしなければなりません。残念ながら今、日本の国の中で、この核のゴミ

を処分する場所も見つかっていません。私たちは核のゴミをどう処分するのか、溜まってしまったプルトニウムをどう処理するのか、まず、こうした問題の解決に努力しなければなりません。

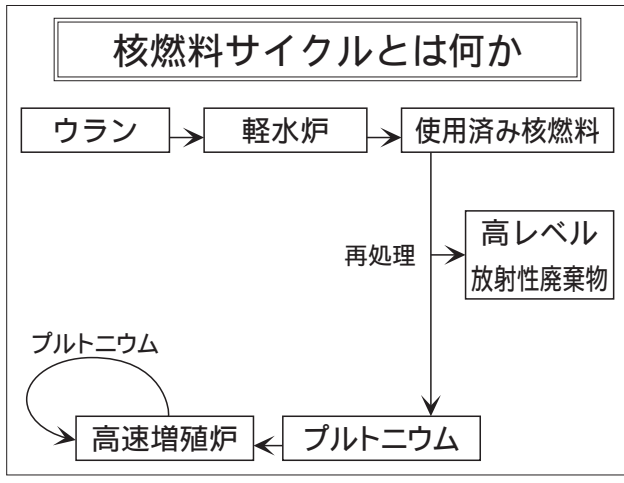
**応用編**  
**本音と建前の乖離**

再処理すれば、もはや不要なプルトニウムが生み出されるだけでなく、多額の追加コストが発生し、電力会社や消費者の負担が増加します。さらに廃棄物の最終処分比べても、再処理は、直接処分と比べてもコスト高であることは明らかです。それでもなぜ、経産省と電力会社は核燃料サイクルに固執するのでしょうか。

その理由が二つあります。一つの理由は、再稼働した原発の使用済み核燃料プールの容量問題です。

原子炉から排出される使用済み核燃料は、原発の敷地内にあるプールに沈められ、冷却されます。ところが

国内のほとんどの原発で、この使用済み核燃料用のプールが一杯になりつつあります。もし、福島第一原発の事故が起これば日本国内の原発が稼働し続けていたとしたら、少なからぬ数の原発は使用済み核燃料プールが一杯になるという危機に直面していたはずで



以前は、原発の敷地内のプールである程度冷却された使用済み核燃料は、青森県の再処理工場の「原材料プール」に移送されてきました。しかし、再処理工場が稼働できないので、この原材料プールは一杯になつ

てしまい、新たに使用済み核燃料を  
持ち込めません。

使用済み核燃料プールが一杯にな  
れば、次の燃料交換ができせんか  
ら、原子炉を停止しなければなりま  
せん。

電力会社としては、原子炉停止を  
避けるために、なんとか再処理工場  
を動かし、原材料プールに空きを作  
る必要があるのです。

もう一つの理由は「青森問題」で  
す。

これまで電力会社は、原発を建設  
するにあたって、立地自治体に対し  
て、原子炉から出てくる使用済み核  
燃料は原発敷地内のプールで一時的  
に保管するが、順次青森県の再処理  
工場に搬出するので、立地自治体には  
残さない、という約束をしてきま  
した。

一方、再処理工場がある青森県に  
対しては、使用済み核燃料は、核の  
ゴミなどではなく、再処理すればプ  
ルトニウムという燃料を取り出せる  
資源であると説明してきました。と  
ころがもし再処理をやめると、使用  
済み核燃料は核のゴミになってしま

います。そこで電力会社は青森県に  
対して、使用済み核燃料を再処理し  
ないならば全量を青森県から運び出  
すと約束しました。

その場合、持ち出した使用済み核  
燃料を原発の立地自治体に戻すため  
には、使用済み核燃料を残さないと  
したこれまでの地元との合意を作り  
直す必要がありますが、電力会社は、  
とてもそんなことはできないと思っ  
ています。

再処理から撤退するためには、青  
森県に事情を説明し、使用済み核燃  
料を「一時的に保管」してもらわな  
ければなりません。しかし、そのた  
めにはこれまでの政策の誤りを認め  
ると同時に、青森県の理解を得る必  
要があります。当初の約束と違うの  
ですから、核のゴミを一時保管する  
ための保管料を青森県に対して支払  
う必要もあるでしょう。それを嫌がっ  
て、経産省と電力会社は、再処理の  
継続を明言し、使用済み核燃料の間  
題を先送りする道を選び続けてきま  
した。そのために莫大なコストを支  
払ってでも再処理を進める、あるい  
は進めるふりをしているのが現実で

す。

使用済み核燃料の問題と向き合わ  
ないために核燃料サイクルを進める  
という馬鹿なことはやめるべきでは  
ないでしょうか。使用済み核燃料の  
中間貯蔵、最終処分について、逃げ  
ずに真正面から徹底的に議論し、合  
意形成を進めることが必要です。

そのためには、再処理ありきの議  
論ではなく、再処理を白紙にした場  
合の議論が必要です。原発に関する  
国民的議論が高まる中で、「使用済  
み核燃料の搬出先がないから核燃料  
サイクルを動かす」という本末転倒  
の論理は通用しません。

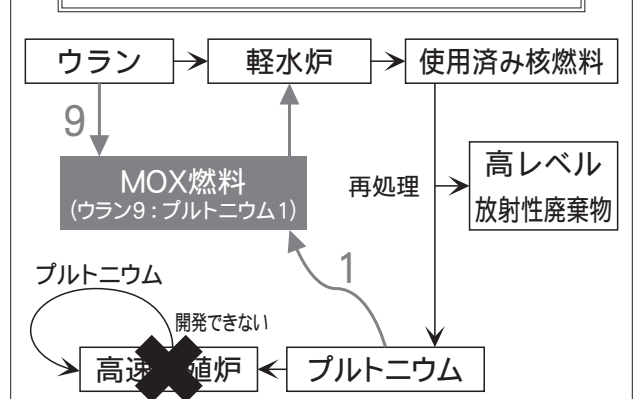
### 《テロと核不拡散》

使用済み核燃料は放射能が強く取  
り扱いが困難なため、テロリストが  
むやみに近づくとはいけません。

しかし、再処理して取り出されるプ  
ルトニウムは、使用済み核燃料に比  
べて扱いやすく、テロ対策という視  
点からは大きな後退です。

すでに四八トンものプルトニウム  
を持つ日本が、再処理を続けようと  
していることが、他の国を刺激して

### プルスーマルとは何か



います。韓国はアメリカに対して、  
日本と同じことを行う権利が韓国に  
もあるはずだと主張し始め、米韓原  
子力協定の改定を申し入れています。  
かつて、核実験を行い、その後、核  
兵器を廃棄した経験もある南アフリ  
カも、商業的な再処理を始めたとい  
う意思を明らかにしています。

日本がこのまま再処理を進めれば、  
韓国や南アフリカをはじめとする核  
兵器を作る技術力のある国々にプ  
ルトニウムを取り出す口実を与えるこ  
とになります。

唯一の被爆国として、核拡散につ

ながるような行動をとるべきではありません。

## 発展編 夢の原子炉から幻の原子炉へ

一九九五年のナトリウム漏れ事故以後も「もんじゅ」には、稼働していかないのに毎年二〇〇億円以上の費用が掛かっていました。

そんななかで、そもそも核燃料サイクルは、最初から絵に描いた餅だったという声が強まっています。

### 《現実には回らないサイクル》

使用済み核燃料を再処理するとプルトニウムを取り出すことができるといっても、そのまま再利用できるのは、重量比で使用済み核燃料の1%にあたるプルトニウムと、そのプルトニウムとともに回収される回収ウランのうち1%程度、合計2%にすぎません。残りの回収ウランは不純物が多く、そのままでは再利用できません。

不純物の混ざった回収ウランを燃料にするためにはそのウランを転換（固体から気体）し、濃縮し、再転

換（気体から固体）し、成型加工するといったプロセスが必要ですが、日本にはそもそも転換工場がありませんから、再処理で回収されるウランの大部分は使うことができないので、現状では、それを貯蔵しておくしかないのです。

再処理して取り出した1%のプルトニウムと1%の回収ウランにしても、それから直接MOX燃料をつくれるわけはありません。濃度調節をするために、新しくウランを混ぜる必要があります。

再処理して取り出したプルトニウムと回収ウランに新たなウランを混ぜてつくったMOX燃料を原子炉で燃やすと、今度はそれが使用済みMOX燃料になります。しかし、使用済みMOX燃料は、もともとのウラン燃料の使用済み核燃料と比べて、プルトニウムの濃度が高く、発熱量は大きく、取り扱いも困難であり、新たに相当面積の大きな貯蔵施設や処分施設を必要とします。

また、この使用済みMOX燃料は、臨界の危険性などから、現在の使用済み核燃料の再処理工場では再処理す

ることはできません。何兆円ものお金をかけて、新しい使用済みMOX燃料用の再処理工場を建設する必要があります。

もし仮にこの使用済みMOX燃料を再処理しても、そこから取り出したプルトニウムには、新しいプルトニウムを加えなければ燃料を作ることはできません。結局、核燃料サイクルといっても、ウランやプルトニウムを追加しなければ新しく燃料を作ることはできず、数兆円かかるような追加施設がいくつも必要になります。

### 《当初の目的の消滅》

そもそも核燃料サイクルは、高速増殖炉によるプルトニウム燃料の増産が目的でした。もんじゅが廃炉になり、高速増殖炉の開発が止まれば、再処理で抽出されるプルトニウムの使いみちがありません。もんじゅの廃炉を契機にして、高速増殖炉に関する政策転換にとどまらず、これまでの核燃料サイクル政策全体を見直していく必要があります。

## メールマガジン

### 「ごまめの歯ぎしり」(応援版)

を創刊しました。

河野太郎の活動に対して、月にワンコイン分のご支援を頂く「ごまめの歯ぎしり（応援版）」を創刊しました。

「まぐまぐ」というシステムを使って発行されるこのメールマガジンは、購読料が月額500円（税別）。そこからクレジットカード手数料とまぐまぐの手数料を差し引いた分が、河野太郎の政治活動に使われます。（最初の1ヶ月は無料です。）

内容は、無料版の「ごまめの歯ぎしり」に加えて、写真を使った国会情勢の解説やここだけのユニークな話が載ったりします。また、応援版の読者の皆様を対象とした報告会を年に数回開催します。

もちろん、「無料版ごまめの歯ぎしり」もこれまで通り継続しますが、河野太郎の政治活動を手軽に月にワンコイン分ご支援いただける方は、次のアドレスから応援版にご登録をお願いします。

<http://www.mag2.com/m/>

0001339330.html

ご支援ありがとうございます。